

- 戦後最悪の国難復興へ、国民の苦難軽減へ党の原点・真価を発揮して全力
- 暮らしと命を守る政治と災害から命を守る政治の土台は同じ。いっせい地方選勝利で 安全・安心の政治への転換 新しい社会、経済へ国民とともに

各地で、救援募金に立ち、党への共感広がる

有権者の気分・感情を大切に、党の立場や政治の転換めざす対話・支持拡大を一気に

■ 「選挙は入れる。救援がんばれ」 兵庫・神戸市灘区

震災後、対話支持拡大活動に躊躇がありました。後援会員から「こんな時期にそんな電話をかけてくるのか」と怒られましたが、「大変な状況ですよね。私たちが阪神淡路大震災で受けた恩を返したいと、救援活動に取り組んでいます」など震災の話になり、被災者の窮状に心を寄せつつ「国会では志位委員長が救援活動に全力を挙げるべきだと全国的に選挙を延期するよう要請しましたが、延期は被災地だけということになってしまいました。かくなるうへは、救援も選挙もがんばりたい」と訴えると、「駅前で募金活動をしているのを知っている、救援活動も選挙もぜひがんばってくれ」と支持を約束してくれました。この後、結びつき名簿で20軒程に電話をかけると、ほとんどが同じように激励してくれました。

■ 震災後「本当の情報と生きる希望はこぶ新聞」と読者12人増やす 京都・成宮候補

成宮まりこ府議候補は、阪神淡路大震災の救援ボランティアで被災地を訪れた際、「赤旗」が「本当に必要な情報を伝え、生きる勇気と連帯をつなぐ新聞」とよく読まれていたことを思い出し、「今も絶対そうだと読者拡大で奮闘。震災後、日刊紙3人、日曜版6人、京都民報3人を増やしています(20日現在)。

竹の里では13日、15日と日刊紙読者が増えました。15日は日曜版読者が日刊紙を購読。どちらも日刊紙は初めてで、震災・原発報道への関心が高まっていることを実感しました。北福西の集いには初めての人も含め12人が参加。震災救援、原発、スーパー・キタノ閉店問題などわいわい2時間。日刊紙と日曜版読者が増えました。榎原では、一般紙を2種類取っている人が「『赤旗』には大事な情報がのっている」と日刊紙を購読。また、先月の「子育てしゃべりば」に参加して「お試し」に日曜版を1ヵ月購読したママが募金にも応じて「『赤旗』いいですね。もうしばらく読みます」とのこと。

いま、西京センターの「赤旗」無人販売ポストは毎日、日刊紙が売り切れになっています。党への注目と政治的関心が大きく高まっています。成宮さんは「こういうときこそ『赤旗』です。有権者の関心は、いのちと安全を守れる政治になっているのか」ということに収れんされつつある感じがする。救援に全力を挙げながら、政治のあり方を問い、いのちと暮らしを守る党をと訴えたい」と頑張っています。

■ 「多少不安」を払拭し、電話作戦に取り組み「やってよかった」 大阪・職場支部

ある職場支部では、16日に電話作戦を再開しました。対話する前は、どういう反応になるかと多少不安でしたが、電話をかけてみると「みなさん震災や原発事故を心配していて、同じ目線で対話ができ話やすかった」、「お見舞いから話に入り、救援募金にとりくんでいることをつたえると、「共産党頑張っている、と好感をもたれた」、「やって良かった」という感想が相つぎました。

「共産党は、被災者の救援・救命に全国の支援を集中するために、地方選挙を全国的に延期して一丸となつてとりくむべきだと申し入れましたが、自民・公明などが反対し政府も同調して実現しませんでした」と話す、

「いま選挙ではないと言うのは、その通りだ」、「それが正論だ。頑張ってもらいたい」と言われ、「民主党の危機管理はなっとらん」、「共産党が突き上げてください」の声も寄せられました。「3月20日付の『しんぶん赤旗』は、震災特集です」と呼びかけ、3人の方が見本紙を「読んでみたい」と言われました。

■「大変な時だから」と弾む対話活動 大阪・東淀川区 下新庄の党支部

17日、6人と対話しました。「親戚のみなさんやお友達で被害にあわれた方はおられませんか？こんなときに命や暮らしを大事にする政治が求められますね」と話すと「そうやね」と応じてくれます。

「橋下知事のように千里救命センターの補助金の廃止は、おかしいね」「暮らし、福祉を一番に考えるのはたさんと岩崎さんを応援してね」と訴え、ほぼ全員が「いいよ」と返事をもらいました。この支部長は「地震・津波、原発で大変な時だけど、安全・安心の街づくりなどで対話は弾む。もっと多くの人と対話しなければ」と語っています。

■支持者で未あたりのところへ対話 大阪 枚方くずは西支部

13日、地域のマンション6棟のうち4棟に4組11人で支持者で未あたりのところへ対話行動。Yさんの組が最初に対話したお宅では、インタホンカメラ越しに救援募金の封筒を見せながら「共産党として募金への協力を呼びかけています。ぜひ協力してほしい」と話すとすぐにドアを開けてくれ、「いっせいで地方選は被災地域だけでなく延期すべきと提案している」と話して候補者パンフを渡して支持を呼びかけています。これで対話になり「ぜひ頑張ってもらいたい」と募金に応じてくれるところや、日曜版を購読してくれるところもありました。この行動にいっしょに参加した他支部の人たちは「こんな行動を急いでやらなあかん。これまで留守で対話できていない支持者のところに早く呼びかけていこう」と翌日以降も対話と電話作戦に取り組んでいます。

■後援会員に訴えて 京都・西区・梅津支部

Iさんは、「震災救援を訴え、支持をみんなにお願いしよう」と、27人の後援会員に電話をかけました。対話では、「共産党の西村としみ事務所ですが、ご存知のように、今大変な事態になっています。共産党は、緊急に募金活動など、支援活動に取り組んでいます。是非、ご協力をお願いいたします」ときりだします。相手からも「本当に大変」「知り合いとも連絡が取れず心配している」「親戚がいる」などの話が出て、一緒に救援に取り組みましょうと呼びかけ、支部の懇談会、19日の演説会の案内をしています。ある方は「地震も大変だが、わたらの生活も大変。共産党に頑張ってもらわないと。西村さんを応援しているぜ」と元気な返事が返ってきました。

■震災救援も支持拡大も 東大阪・布施北・布施南地域で活用している対話のポイント

- ① まず最初に、東日本地震で大変な事態となっていることを話す。この際、知り合いなどが被災されていないかも聞く。
- ② 日本共産党が被災地救援の募金活動を全国ですすめていることを紹介し、協力をお願いをする。
- ③ 選挙は延期するべきと共産党は主張したが、被災地のみの延期となったことを紹介し、救援活動も選挙もがんばるので支援をお願いをする。
- ④ 選挙の問題では、安心・安全の街づくりが争点となっていており、日本共産党は学校の耐震化などをいっかんして主張してきたこと、原発問題での主張、これからも、くち原亮（府議）はがんばっていくことを伝える。WTCの問題での橋下知事の対応などを知らせる。

奮闘ごころうさまです。

各地の、地方議員・候補者・支部の貴重な経験のニュースをFAX、メールでお知らせ下さい。